

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	しびらきっず		
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和7年 12月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 15
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 1日		～ 令和7年 12月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 9日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	実習生、ボランティアの受け入れなど、外部の目を積極的に受け入れている。	保育士、社会福祉士の実習生の受け入れ、夏のボランティア体験の受け入れを積極的に行っています。放課後等デイサービスに通う児童の理解に留まらず、障害を持つ子供たちの将来についてどのような支援を必要としているか、考える機会を設け、より身近に感じてもらうよう指導を行っています。	単発的な関わりから、定期的な関わりになるような声掛けを行っています。
2	外出の機会が多い。	制作など室内プログラムの日を除き、ほぼ毎日外に出る機会を作っています。徒歩で行ける公園から、車で片道30分程度の遠出していく大きな公園など、子どもたちの様子や要望に合わせて行き先を検討しています。	大集団、小集団など、その日の子どもたちの様子や目的に合わせたグループ分けを行い、そのグループに合わせた行き先選びを行います。また、新たな公園(行き先)の検討を進めていきます。
3	法人内の事業所の活用。	入所施設の地域交流スペース、就労継続支援B型事業所のベーカーリー、カフェ、畑などをプログラムの行き先に取り入れ活用しています。 また、法人全体のお祭りのお手伝いや準備、作品展示の機会を提供しています。	事業所スペースの活用だけでなく、顔見知りの関係になれるような働きかけ、取り組みをしています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースが狭い。バリアフリーではない。	建物の構造上、個室やバリアフリー化が難しい状況です。	子どもの特性によっては刺激の多い環境になってしまうため、パーテーションなどの設置を行い、視覚を遮り集中できる環境作りを検討します。また、活動グループを分けて場所を交えるなども検討していきます。
2	家族支援プログラムの不足。	年2回保護者会を設定していますが、参加者が少ない状況です。	昨年度から親子レクを取り入れています。今年はいちご狩りを企画し、11組の申し込みがありました。親子同士の関わりの機会を設け、必要に応じてペアレントトレーニングなどを検討していきます。